

4.3 室町時代の東アジアと日本：教科書 p.82~83、資料集 p.73~75

<倭寇>

〔背景〕

①蒙古襲来後も、僧侶や商人はさかんに中国大陸と往来していた。

例) 足利尊氏が天竜寺船を元にした。 ←天竜寺造営の資金を得るため

②武士や商人も貿易に従事したが、貿易活動が不調になると海賊行為を行った。

↓

* 倭寇…朝鮮・中国沿岸で海賊行為を行う者たちで、前期倭寇と後期倭寇に分けられる。前者は主に日本人が構成員で、後者は中国人が主な構成員となった。

<明との貿易（日明貿易）>

〔背景〕

1368年 朱元璋が元を倒して「明」を建国し、洪武帝(初代皇帝)として即位
…日本に対して倭寇の禁止と朝貢を求める

1401年 足利義満、明に使節を派遣(僧侶の祖阿と博多商人の肥富)
…中国皇帝から「日本国王源道義」の称号を受ける

〔貿易の開始〕

1404年 日明貿易 開始

…朝貢貿易の形式をとり(日本が明の臣下として従属する)、私貿易を禁止し、船を区別するために「勘合」を用いた。

↓

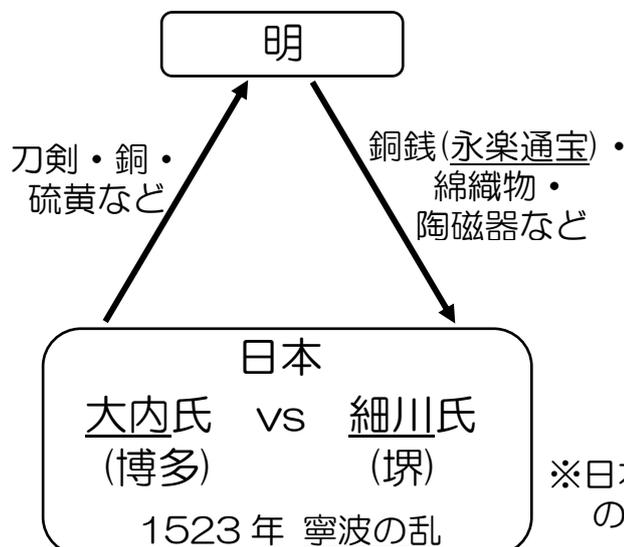
室町幕府第4代将軍 足利義持によって一時中断!

…理由: 日本が中国に従属するという形式を嫌ったため。

↓

室町幕府第6代将軍 足利義教が再開した!

〔貿易の内容〕



※日本側の滞在費・運搬費などの貿易の経費はすべて明が負担した

<日朝貿易>

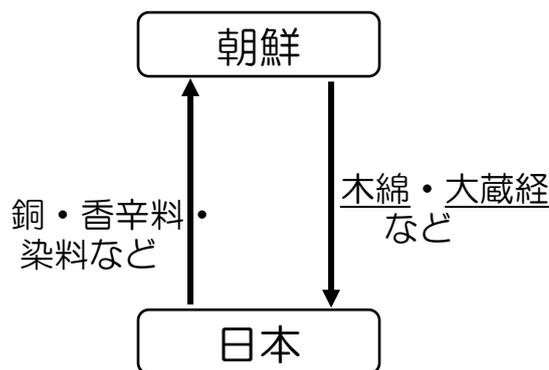
～朝鮮半島～

1392年 李成桂が高麗を滅ぼして朝鮮王朝を樹立
→倭寇の取り締まりを日本に要求（特に、対馬の宗氏に対して）

1419年 応永の外寇
…倭寇の本拠地を対馬として、朝鮮が襲撃した

〔貿易の概要・内容〕

※朝鮮は港を3つに限定していた→①富山浦、②乃而浦、③塩浦：併せて三浦という



1510年 三浦の乱…三浦に住む日本人居留民が、統制強化に反発して蜂起した。
⇒以後、日朝貿易は衰退していった…

<琉球王国>

—14世紀中ごろ—

・北山、中山、南山の三王国が成立していた ⇒ 三山と呼ばれる

↓

・1429年 尚巴志が全島統一を果たす
⇒ 琉球王国の成立…首都：首里 外港：那覇

〔琉球王国を支えた中継貿易〕

日本や明 ⇄ 琉球王国 ⇄ 東南アジア諸国(シャムやマラッカなど)

<蝦夷ヶ島>

—14世紀～15世紀—

・本州から移住し、北海道南部に居住地を構える「和人」の増加
⇒ 道南十二館を築いて交易を行った

・1457年 コシャマインの蜂起
…アイヌの大首長コシャマインを中心とした和人に対する反乱
→蠣崎氏によって制圧された(蠣崎氏はのちの松前氏)